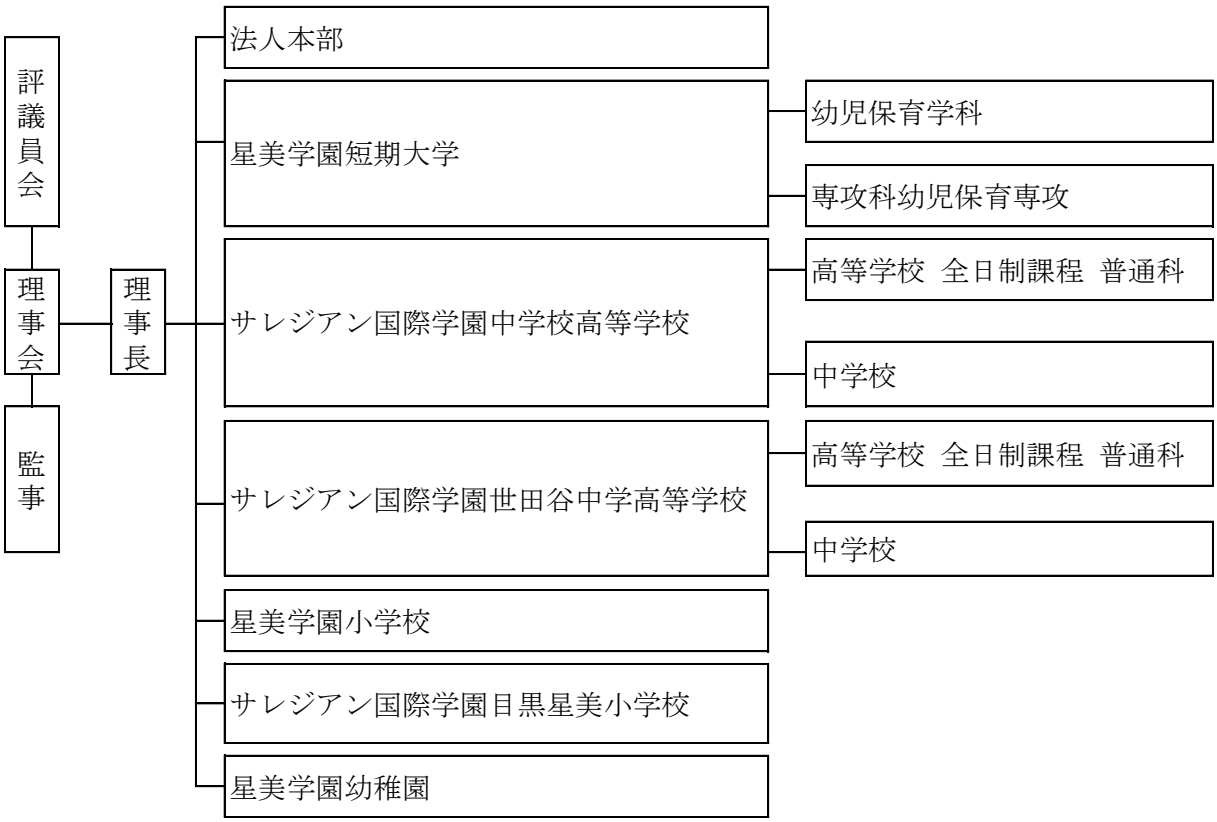
令和６年度事業報告書

Ⅰ　法人の概要

１　建学の精神

学校法人星美学園は、我が国の教育基本法及び学校教育法に従って、扶助者聖母会の創立者聖ヨハネ･ボスコの教育理念である「予防教育法による全人間教育」、すなわち、理性・宗教・慈愛に基づき、家族的教育環境の中で、「誠実な人間、良い社会人を育てる」ことを目的にカトリック・ミッション・スクールとして教育事業に取り組んでいる。

２　学園組織



３　所在地

校　　名	所在地
法人本部	〒１１５－８５２４ 東京都北区赤羽台４丁目２－１４
星美学園短期大学	
サレジアン国際学園中学校高等学校	
星美学園小学校	
星美学園幼稚園	
サレジアン国際学園世田谷中学高等学校	〒１５７－００７４ 東京都世田谷区大蔵２丁目８－１
サレジアン国際学園目黒星美小学校	〒１５２－０００３ 東京都目黒区碑文谷２丁目１７－６

４　沿　革

1929年12月	イタリアからシスター・レティツィア・ベリアッティ他5名の宣教女来日
1940年12月	東京三河島「星美学園」創設
1947年01月	星美学園小学校設置認可
1947年04月	星美学園中学校設置認可
1948年03月	星美学園高等学校設置認可
1951年03月	学校法人星美学園設立
1953年01月	星美学園幼稚園設置認可
1954年03月	学校法人星美学園、星美学園第二小学校設置認可
1955年03月	星美学園第二小学校校舎落成（西側半分落成）
1956年10月	「学校法人目黒星美学園」として寄附行為認可 「星美学園第二小学校」を「目黒星美学園小学校」に改称
1959年11月	目黒星美学園中学校設置認可
1960年01月	星美学園短期大学家政科設置認可
1962年09月	目黒星美学園高等学校設置認可
1963年04月	短期大学保育科新設
1967年04月	短期大学国文科新設
1969年05月	短期大学各科の名称を改称（家政学科、幼児教育学科、国文学科）
1971年07月	目黒星美学園中学高等学校体育館完成
1972年02月	目黒星美学園小学校体育館完成
1980年05月	星美学園中学・高校特別教室棟・体育館落成

1985年07月	星美学園プール・南グランド竣工
1991年05月	目黒星美学園中高講堂落成
1993年04月	短期大学家政科を生活文化学科と改称
1999年12月	短期大学国文学科・生活文化学科を改組し、人間文化学科とする設置認可
2000年06月	目黒星美学園小学校新校舎落成
2003年04月	短期大学専攻科幼児教育専攻設置
2004年05月	短期大学日伊総合研究所設立
2005年04月	短期大学幼児教育学科を幼児保育学科に改称 専攻科を専攻科幼児保育専攻に改称
2007年04月	目黒星美学園中高６年一貫教育体制導入
2009年04月	短期大学人間文化学科専攻科イタリア語イタリア文化専攻設置
2011年03月	目黒星美学園中高校舎建替工事完成
2012年08月	星美学園防災非常用倉庫設置
2015年04月	短期大学人間文化学科・専攻科イタリア語イタリア文化専攻廃止
2016年04月	学校法人星美学園と学校法人目黒星美学園合併
2018年04月	短期大学男女共学開始
2022年04月	星美学園中学校高等学校をサレジアン国際学園中学校高等学校に校名変更及び男女共学開始
2023年04月	目黒星美学園中学高等学校をサレジアン国際学園世田谷中学高等学校に校名変更及び男女共学開始、目黒星美学園小学校をサレジアン国際学園目黒星美小学校に校名変更

5　校種別入学者数、在籍者数の状況

令和６年５月１日現在

校　種	学部等	入学者数	収容定員	在籍者数
星美学園短期大学	幼児保育学科	37	200	78
	専攻科幼児保育専攻	30	100	30
	小　計	67	300	108
サレジアン国際学園高等学校	全日制　普通科	91	450	241
サレジアン国際学園中学校		147	450	417
サレジアン国際学園世田谷高等学校	全日制　普通科	注　－	270	181
サレジアン国際学園世田谷中学校		147	270	360
星美学園小学校		99	720	584
サレジアン国際学園目黒星美小学校		107	720	618
星美学園幼稚園		51	240	172
学園合計		709	3,420	2,681

注：サレジアン国際学園世田谷高等学校は、サレジアン国際学園世田谷中学校の内部進学者のみ。

6　教職員の状況

令和６年５月１日現在

区　分	学園長	学長・校長等	教頭・副学長	教　諭			小計	職　員				小計	合計
				教諭	非常勤講師	嘱託		事務局長	事務部長等	事務員等	嘱託		
法人本部	1						1	1				1	2
星美学園短期大学		1	1	9	42		53		1	4	4	9	62
サレジアン国際学園高等学校		1	1	23	7 (4)		32 (4)		1	10	1	12	44 (4)
サレジアン国際学園世田谷高等学校		1	1	17	11 (3)		30 (3)		1	8		9	39 (3)
サレジアン国際学園中学校		(1) 兼務	1	38	9 (3)		48 (3)		(1) 兼務	7	2	9	57 (3)
サレジアン国際学園世田谷中学校		(1) 兼務	1	32	14 (7)		47 (7)		(1) 兼務	11		11	58 (7)
星美学園小学校		1	1	35	1	3	41		1	9		10	51
サレジアン国際学園目黒星美小学校		1	1	43	4 (2)		49 (2)		1	7		8	57 (2)
星美学園幼稚園		1	1	12		2	16			2	1	3	19
合　計	1	6	8	209	88 (19)	5	317 (19)	1	5	58	8	72	389 (19)

派遣教員は、非常勤講師に含め、人数は（　）で表す。

7　役員・評議員の状況（令和６年５月１日現在）

(1) 役員の定数及び実数

区　分	定　数	実　数
理　事	８名以上11名以内	10名（うち外部理事２人）
監　事	２名又は３名	２名（うち外部監事２人）

(2) 役員

役　職	氏　名	勤務形態	選任区分	摘　要
理事長	鈴木　裕子	常勤	学園長	学校法人星美学園学園長
理　事	阿部　健一	職員兼務理事	学長	星美学園短期大学学長
理　事	森下　愛弓	職員兼務理事	校長	サレジアン国際学園中学校高等学校校長
理　事	見城　澄枝	職員兼務理事	園長	星美学園幼稚園園長
理　事	小島　理恵	職員兼務理事	評議員	サレジアン国際学園目黒星美小学校校長
理　事	星野　和江	職員兼務理事	評議員	星美学園小学校校長
理　事	森下ワカヨ	職員兼務理事	学識経験者	サレジアン国際学園世田谷中学高等学校校長
理　事	青木　二郎	非常勤	学識経験者	外部理事（弁護士）
理　事	宮脇　道子	非常勤	学識経験者	外部理事（宗教法人カトリック扶助者聖母会代表役員）
理　事	福岡　　豊	職員兼務理事	学識経験者	法人事務局長
監　事	最首二三夫	常勤	―	元日立オートモティブシステム㈱
監　事	赤木　純子	非常勤	―	宗教法人カトリック扶助者聖母会管区財務

(3) 責任免除・責任限定契約、保証契約・役員賠償責任保険契約の状況

契約なし。

(4) 評議員の定数及び実数

区　分	定　数	実　数
職員評議員	18名以上23名以内	13名
非職員評議員		８名
計		21名

(5) 評議員

氏　名	職員・非職員の別	選任区分	摘　要
宮脇　道子	非職員	宗教法人代表役員	宗教法人カトリック扶助者聖母会代表役員
鈴木　裕子	職員	学園長	学校法人星美学園学園長

阿部　健一	職員	学長	星美学園短期大学学長
森下　愛弓	職員	校長	サレジアン国際学園中学校高等学校校長
小島　理恵	職員	校長	サレジアン国際学園目黒星美小学校校長
星野　和江	職員	学園の職員	星美学園小学校校長
福岡　　豊	職員	学園の職員	法人事務局長
江崎　節子	職員	学園の職員	星美学園幼稚園教頭
塚田　憲邦	職員	学園の職員	サレジアン国際学園世田谷中学高等学校
坂井佐奈栄	職員	学園の職員	サレジアン国際学園目黒星美小学校教諭
青木　二郎	非職員	評議員から選任された理事以外の理事	弁護士
見城　澄枝	職員	評議員から選任された理事以外の理事	星美学園幼稚園園長
宮脇　眞澄	非職員	学園の卒業者	扶助者聖マリア修道院院長
谷田部美佳	非職員	学園の卒業者	上智大学短期大学部英語科准教授
森下ワカヨ	職員	学園の卒業者	サレジアン国際学園世田谷中学高等学校校長
吉田登代子	非職員	学識経験者	扶助者目黒修道院院長
栗林　勝彦	非職員	学識経験者	㈱aoyamaFUJI 代表
飯田　和俊	非職員	学識経験者	三菱ケミカル物流株式会社
角田　　誠	非職員	学識経験者	㈱角田誠事務所代表取締役
島元　美恵	職員	学識経験者	サレジアン国際学園世田谷中学高等学校教頭
小林　由加	非職員	学識経験者	清泉女子大学及び聖心女子大学非常勤講師

Ⅱ　事業の概要

1　部門別の諸活動報告（教育事業）

(1) 学校法人

ア　学校法人は、設置する中学校及び高等学校の学校改革を推進し、３年目となり、これらの計画は、概ね順調に進み学則定員をほぼ確保することができ、21世紀の社会に必要とされる人材を育成する魅力と活力のある学校づくりの目標を引き続き着実に進めることとする。

イ　急激な出生率の低下から幼稚園及び小学校も危機感を強め、学校改革の準備を開始した。

(2) 法人事務局

ア　赤羽キャンパス中学校高等学校校舎建設計画の推進

令和５年８月頃から、新校舎建設準備を進め、令和７年３月末に東京都の一団地認定申請及び建築確認申請が受理され令和９年１月の新校舎完成に向けて着実に進める目途ができた。

イ　私立学校法改正に伴う体制確立

改正私学法に基づく新寄附行為が令和７年１月24日に認可され、令和７年度から新体制に移行できる準備が完了した。

ウ　法人事務局の機能強化

事務の効率化等の推進は、法的な電子帳簿、インボイスの対応は終わったが、キャッシュレス等への対応は、令和７年度も引き続き行うこととする。

エ　仮設校舎への引越し

令和６年４月に引越しが完了し、早期に各校種への支援等の体制を完了することができた。

(3) 星美学園短期大学

ア　閉学に向けて

(ｱ) 文部科学省等関係機関への問合せを行い、閉学に伴う諸届け等の準備を開始した。

(ｲ) 閉学に当たって保存する資料、廃棄する資料の仕分けを行う準備を開始した。

(ｳ) 同窓会（ウニオーネ短大）の、閉学後の活動について、同窓会役員と意見交換を始めた。

(ｴ) 「短大アーカイブス」の設立について検討を開始した。

イ　高大連携事業の推進

昨年同様、高大連携事業協定を結んでいる赤羽北桜高校及び品川エトワール女子高等学校において、本学専任教員が授業を行った。

ウ　ドン・ボスコの教育法に関する研修

浦田慎二郎神父による「ドン・ボスコの教育法」に関する職員研修を、例年通り、1月に行った。

エ　就職状況

就職状況は、次のとおり。

学科名	幼児保育学科卒業生								
卒業者数	39								
進路決定者数	（就職）３　（進学）３４　（その他）２								
分野	幼稚園	保育所（無資格）	こども園	施設	特別支援学校（臨時）	一般企業	その他	進学	
								専攻科	短大・大学等
人数	0	1	0	0	1	1	2	32	2
%	0	2.6	0	0	2.6	5.1	5.1	82	5.1

学科名	専攻科幼児保育専攻修了生							
修了者数	30							
進路決定者数	（就職）２８　（その他）２							
分野	幼稚園	保育所	こども園	公務員	施設	特別支援学校（臨時）	一般企業	その他
人数	3	11	2	5	2	5	0	2
%	10	37	7	16	7	16	0	7

(4) サレジアン国際学園中学校高等学校

ア　教育内容の改革を推し進め、コミュニケーション力・考える力・理数リテラシー・言語活用力を育成する。

(ｱ) ＰＢＬ型授業の向上を目指して努力することができた。

(ｲ) 基礎知識の定着を図るための朝学習を計画的に行えるためのシステムを構築し実施したが、更に改善することとする。

(ｳ) ２コース制のそれぞれのコースの魅力を高めるための検証実施をすることができた。

(ｴ) ＤＤＰのカリキュラムの完成、１期生へのアプローチは効果的にでき、生徒と家庭に期待値を持たせられた。

(ｵ) 高１の海外留学者は２１名。それぞれの目的を持って出発した。高２は、良い体験をして、高いモチベーションを維持しながら学校生活を送っている。スタディツアーは、中学生を中心として２６名参加。今年は場所を変えて、姉妹校、大学の訪問をした。

(ｶ) キャリア教育は、海外大学も視野に入れながら、大学の紹介。さらに、その先の職業を見据えての講演等を実施することができ、生徒たちが将来像を描くことができた。また、上智大学との高大連携プログラムを充実させることで、受験への意欲向上につなげた。

(ｷ) 本科の個人研究は、高２～中２まで８つのゼミに所属して、それぞれの

研究を深めることができた。

(ｸ) 学習指導部の運営が明確化されておらず､データー等の作成は行えたが、その分析と活用ができていなかった。

イ　学校生活の充実を図る。

(ｱ) 18歳のプロファイルを、朝礼での話の中に盛り込み、生徒たちに意識させることができた。また、高校生に対して、アンケートを実施して、よりあるべき姿を確認させることができた。

(ｲ) カウンセラーの増員により、生徒たちのメンタルヘルス支援体制を整えることができた。

(ｳ) 学園祭は、生徒たちの実行委員の動きが素晴らしく、より生徒たちの手によって実施でき、全校生徒へのアンケートも満足度がアップしていた。以下の点においては大変進歩した｡しかし､まだまだ反省点があるので、ＰＤＣＡを回しながら更に発展させたい。

・事象・事態の解決にのみ追われてしまい、予防教育法に基づいた生徒指導の在り方を研究することができなかった。

・法化社会化をふまえて、スクールコンプライアンスの観点から予防教育法の可能性をあらためて探ることができなかった。

・体育祭は、事前準備が足りないために、生徒たち中心の実施ができなかった。

ウ　募集広報を推進する。

(ｱ) 高校入試は、応募者は前年に比べて減ったが、レベルを上げての応募だったため、優秀な生徒を確保することができた。

(ｲ) 星美学園小学校へのアプローチは、多くの方に知っていただくために、星美学園小学校のご協力を得て、保護者会で宣伝をさせてもらい、昨年度より応募者が増えてきた。

(ｳ) 昨年の募集データーを基に分析を続け、入試につなげることができた。

(ｴ) 教職員全体への内部広報の強化が不足していた。

エ　学校改革の推進、ＨＲ教室不足のため、新校舎の建築に関わる準備を進める。

(ｱ) 新校舎建築計画は、緻密に計画されており、計画通りに進んでいる。

(ｲ) フランシスコ棟に入った生徒たちは、学年としてのまとまりができて、とても喜んでいる。

(ｳ) 特別教室棟の更新工事も計画通りに行っている。

オ　国の推奨する働き方改革を進めていく。

最終退勤時間は、守れるようになってきており、休息をとることの大切さが教員たちの中で、確認納得が進んできた。

部活動を申請制にして、コーチを配置することで、教員たちの授業向上への時間を確保することができた。

管理職による面談等で仕事量について把握はできているが、能力の個人差があり、仕事量にどうしても偏りが出てくる。ここの差を埋めるための、方策がなかなか見つけることができなかった。

カ　進路実績（令和６年度）

大学群	大学名	合格数	大学群	大学名	合格数
早慶上理	早稲田大学	1	中堅女子大	共立女子大学	1
	慶応義塾大学	1		東京家政女子大学	1
	上智大学	9		大妻女子大学	1
	東京理科大学	3		実践女子大学	3
GMARCH	明治大学	1		白百合女子大学	4
	青山学院大学	1	その他の大学	桜美林大学	1
	立教大学	1		順天堂大学	1
	中央大学	2		獨協大学	1
	法政大学	2		武蔵野大学	1
主要女子大	東京女子大学	1		玉川大学	1
	津田塾大学	1		東京国際大学	4
	日本女子大学	4		帝京大学	1
	聖心女子大学	1		帝京平成大学	1
中堅私立大	日本大学	12		東洋大学	1
	成蹊大学	1		東邦大学	2
	成城大学	2		文教大学	2
	明治学院大学	2		立命館アジア太平洋大学	3
理系大学	麻布大学（生命）	2		城西国際大学	2
	明治薬科（薬）	1			
	順天堂大学（薬・健康）	2			
	東京薬科（生命・薬）	2			
	帝京平成大学(ケア)	1			
	芝浦工業	4			
	同志社女子大学(薬)	1			
	工学院	1			
	日本獣医生命科学	1			

(5) サレジアン国際学園世田谷中学高等学校

ア　建学の精神

(ｱ) ストレンナ（サレジアンの年間目標）を教職員、生徒と共に深めることができた。

(ｲ) サレジアン２期生を迎え、在校生とともに学校生活の充実を図るよう努めたが、女子学年の生徒は人数も少なく、共学学年と比べて物事を悲観的に考える生徒や保護者もいる。

(ｳ) 浦田師の研修を通して、アシステンツァ（プレゼンツァ）について深めることができた。

イ　教務

(ｱ) 「考え続ける力」を身につけていくために、論理的思考力をベースとした授業案を作成し、実行することに全教科で取り組んだ。

(ｲ) 新カリキュラムの検証と改善を行い、本科クラス・インターナショナルクラスのカリキュラムについて検討を進めてきた。

(ｳ) 学校行事について５つの柱を意識し、成長を促していく行事内容になっているかを確認し、年間行事の整理・意義付けをしてきた。とくに、今年度初めて高校生が合唱コンクールに参加し、全体が活気づいた。

ウ　本科推進

2025年募集から始まるＭＥＤＩＣＯ(医学やサイエンスに特化したクラス)の準備を確実に進めてきた。そのために必要な教員の採用計画を進めたが、次年度も継続していく必要がある。

エ　インター推進

(ｱ) 世界の兄弟校、とくにオーストラリア・サンベリーと連携を密にすることができた。

(ｲ) 本科・インターともに参加できる短中長期の留学プログラムを企画し、とくに、新３年生のためのシドニーへの修学旅行とカナダへの短期留学について具体化できた。

(ｳ) 2026年度開始予定の DDP（デュアル・ディプローマ・プログラム）にむけて、サンベリーサレジアン校と教育提携を行い、各種調整をすることができた。

(ｴ) 英語での Journal を創刊した。初回は９名の生徒が記事を投稿した。

オ　教育研究開発

(ｱ) 全学年実施の PBL 型授業の質の向上を目指し、教員同士切磋琢磨することができた。

(ｲ) ICT 教育では、プレゼンに特化した PC 室および第二音楽室を有効活用することができた。また、新しい図書館も ICT 教育の場として多くの教員が活用した。

(ｳ) Ｃ領域授業や PBL 型授業でのペーパーレス化、および思考の可視化を ICT 機器での促進については教員の研修など行ったが、まだ一部の教員にとどまっている。

(ｴ) VCP の在り方について、「探究×心の教育」などの軸で再構成し、本校の独自性を打ち出すよう心がけた。

カ　生徒指導

(ｱ) １年をかけて作成した生徒指導のルーブリックを活用し、指導を行うことになっていたが、教員側が徹底できなかった。

(ｲ) 何事も生徒に委ね、任せることで、自ら考え責任ある行動ができる生徒を育成するよう心がけた。

(ｳ) 情報化社会が加速する時代を生きる生徒たちに必要な情報リテラシー教育を充実させたが、安易に情報を流す生徒もいて指導の対象となった。

(ｴ) 保護者にも自転車通学に関する情報を共有することができた。

キ　募集広報

(ｱ) 各学校説明会にて午前･午後開催そして満席での実施継続を実現できた。

(ｲ) 大手４塾（SAPIX、四谷大塚、早稲田アカデミー、日能研）からの受験希望者も増えてきた。

(ｳ) 男子児童の入学希望者を増やし、男女比１：１を目指しているが、毎年10名程度増えている状況である。

(ｴ) 小学校との情報共有を続け、保護者にもできるだけご理解いただけるよう努めた。

ケ　働き方改革

(ｱ) ペーパーレス化を進める。Teams を利用し、連絡等はデジタル化し、会議では、連絡事項はなくすように努めた。職員会議は月1回としたが特に問題はない。

(ｲ) 放課後のクラブ活動などを、外部指導員に委ね、放課後の時間を授業準備などに使えるようにした。

コ　図書館の改修

(ｱ) 図書館を大規模に改修し、様々な学習（自習・探究学習・グループワーク・プレゼン）が可能なスマートライブラリーを構築した。

サ　進学実績

大学群	大学名	合格数	大学群	大学名	合格数
早慶上理 ICU	早稲田大学	3	中堅 女子大	共立女子大学	1
	上智大学	9		清泉女子大学	1
	国際基督教大学	1		実践女子大学	3
GMARCH	明治大学	6	その他の 大学	桜美林大学	3
	青山学院大学	3		関東学院大学	3
	立教大学	6		産業能率大学	2
	中央大学	1		昭和音楽大学	1
	法政大学	3		洗足学園音楽大学	2
	学習院大学	1		玉川大学	2
主要 女子大	東京女子大学	1		中央学院大学	1
	日本女子大学大学	2		帝京大学	1
	聖心女子大学	5		帝京科学大学	1
中堅 私立大	日本大学	3		東海大学	1
	成蹊大学	1		東邦大学	2
	成城大学	2		日本体育大学	1
	明治学院大学	8		明星大学	1
	國學院大学	2		立命館大学	1
理系大学	麻布大学（獣医）	1		Gannon University	1
	杏林大学（保健）	2			
	順天堂大学（薬）	1			
	昭和大学（看）	1			
	帝京平成大学（看）	1			
	東京工科大学	2			
	東京農業大学	2			
	日本歯科大学	1			

(6) 星美学園小学校

ア　教育重点目標「強い意志を持って善を選び取り行動する児童の育成」の充実

(ｱ) 創立者の精神を継承する教師集団となれるように、毎月の職員会議の際に、「日々の建学の精神」として、ドン・ボスコの教育について研修をし、感想を分かち合い、意識を高めた。

(ｲ) 建学の精神に沿った教育が実践できているかどうか学期末にサレジアンカラーの振り返りを各自で行い、次の学期に活かすようにした。

(ｳ) アシステンツァの実践「当たり前」のことが実行できるように日々善の行いを全教員で児童に伝え、指導を心がけたが、十分に身についているとは言えない。

(ｴ) 「18歳のプロファイル」の内容をキャリアパスポートの中に組み込み、学期末ごとに振り返りを行ったことで児童は意識できた。

(ｵ)「星美のかしこい子」

星美のかしこい子の中から、㋕「神様と人の前に正直な子」を重点的に指導した。良くない行動をした時に、素直に言えない児童もいる。自分の行動に責任を持つ児童を引き続き育てていきたい。

イ　教科書改訂に伴う新カリキュラムの実施

(ｱ) 教科書が改訂され、カリキュラムも多少変わる中で、教科等横断的な学習を考えながら、カリキュラムマネジメントを実施していくことにしていたが、教科で連携して指導するには更なる研究が必要。

(ｲ) 授業内容の改善　　各教科ごとに研修目標を設置し、全員が１回以上研究授業を行うことができた。

(ｳ) プログラミング教育の充実・・・年間の指導計画案を基に、担当教員が呼びかけ、学年に応じたプログラミングの指導を行った。

(ｴ) 宗教の授業で令和２年度から実施した「からし種」の授業実践も５年目に入り、全教員が授業に取り組み、指導案を残し、宗教的な価値観を大切にして歩めた。

(ｵ) 英語の４技能（リスニング、スピーキング、ライティング、リーディング）が身につくように、家庭学習にも力を入れ一人ずつ音声を提出することで、発音のチェックやフィードバックを行うことができた。

ウ　ＩＣＴ教育の充実

(ｱ) Monoxer(ものぐさ)アプリを使用し、授業のすきま時間や朝学習の中で個に応じた学習ができた。

(ｲ) ３年生以上は iPad を使い、調べ学習、資料のまとめ、発表に至るまでの操作に慣れ、効果的に活用できた。

(ｳ) コンピューターに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力を身に付けるためのプログラミング学習を１年生から実施できた。

エ　教員研修

(ｱ) 教員が宗教的な価値観を大切にしていくために、月曜日の職員朝会時には必ず聖書朗読を行ない、職員会議では最初の10分間を宗教研修に充てる

中で、日常的に聖書に親しむ機会を持った。

(ｲ) 研修テーマを「自分の考えをしっかり持ち、伝え合う授業づくり」とし、自分の考えを他者へ発信する「伝え合い」を通して、相互啓発により、深め、まとめていける主体的な授業づくりを各教科で意識した。

(ｳ) 全校授業研修を年間３回（５年英語、４年国語、６年社会）実施し、相互に授業を見合うことにより授業力を高めるための参考にした。

(ｴ) 夏休みの SDB 研修では、関谷義樹神父様に来ていただき、ドン・ボスコの予防教育法についての研修を行った。

(ｵ) 外部の研修に積極的に参加した教員と決められた研修しか参加しなかった教員がいたので、もっと積極的に呼びかける必要を感じた。

オ　生活指導

(ｱ) カトリック・ミッション・スクールということを常に意識し、愛されているという実感を児童に持たせ、宗教教育を土台とした人間形成を図る指導を全教員で一致して行うための努力をした。

(ｲ) 「どの児童も星美の子」という意識を全教員が持ち、当たり前のことができるように一致して指導するよう心掛けた。

(ｳ) 場に合った行動ができるように指導し、特に校舎内は静かな落ち着いた雰囲気を保つよう全教員で声をかけたが、定着はまだ十分ではない。

(ｴ) クラスや児童、担任に何かトラブルが起きた時には、学年や管理職と情報を共有し、担任で処理しきれない内容は管理職が対応にあたった。

(ｵ) 年６回の「学校生活アンケート」を実施し、児童が安心して学校生活が送れているか子どもの声を聞いた。子どもが不安に感じていることについては、子どもと話し合い、解決できるように努めた。

カ　施設・環境の充実

(ｱ) 予定していた工事は全て完了した。

キ　魅力ある学校作り・・学校の特色として、「心の教育」「英語教育」

(ｱ) アシステンツァ～いつも子どもと共に～を合言葉に、全教員でドン・ボスコの教育法を実践し、子どもの個性を尊重し、温かい家庭的な雰囲気のある学校にしていくために、教職員同士が何でも話し合える雰囲気を大切にした。

(ｲ) 職員室や放送室前の掲示板に英語コーナーを作り、児童が作ったクイズや学習での様子を英語で表記し、普段から児童が英語に興味を持てる機会を多くした。

(ｳ) 朝の放送や教室での健康観察などを児童が英語で行ったり、家庭での英語学習の様子を音声で担当教員に提出してもらい Speaking にも力を入れた。４年生の体験学習として TOKYO GLOBAL GATEWAY に行き、本物の英語に触れる機会を持ち、児童も楽しんで体験ができた。

(ｴ) 持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）に関心を持たせ、iPad などで調べ活動などを通して、世界がおかれている状況を理解し、地球市民として自分ができることを考えることができた。

(ｵ) 高学年共学化(2025年度予定)に向けて、更衣室の設置や教科指導・進学指導の方法などを進学に関わったことのある教員で考えた。

ク　入試広報

(ｱ) 園児向けの動画「せいびのおへや」では、定期的に行事や活動の紹介ができた。

(ｲ) 幼児教室との関係を密に、要請があればミニ説明会などを行い、本校の宣伝を強化した。カトリック幼稚園を訪問したところ、該当幼稚園からの入学者が増えた。

(ｳ) 星美学園幼稚園との連携を深め、低学年と園児の交流の機会を持ち、楽しく活動できた。

ケ　学校生活の安全確保

(ｱ) 何か問題が起きた時には、赤羽警察署スクールサポーターに連絡し、指導を仰ぎ、見回りを強化してもらった。

(ｲ) 登下校の立哨指導を保護者、教員で実施した。１年生の下校時刻に合わせて保護者が、高学年の下校時刻に合わせて専科教員が立哨指導を行った。

(ｳ) 様々な状況を設定した避難訓練を年８回行い、有事の際、命を守れるよう指導した。

(7) サレジアン国際学園目黒星美小学校

ア　心の教育

(ｱ) 令和５年度からの校名の変更に伴い、「国際学園」としての保護者の期待も高まっている。しかしながら、本校の根幹をなすものは「心の教育」であり、「品性を備えた誠実な明るい児童の育成」に努める教育方針は変わらない。その教育法は「予防教育法」であり、３本柱は「理性」「宗教」「慈愛」である。この点について全教員で定期的に研修を行い、分かち合いなどを通して共通理解を図り、子どもたちと共にいること（アシステンツァ）を大事にしながら日々の教育活動を行った。

(ｲ) サレジアン・シスターズの姉妹校共通の教育目標「18歳のプロファイル」について、年度初めに、前年度の結果を全教員に伝え、日々の実践に生かせるようにした。12月に行った６年生のアンケートでは、２年前と同様「神様から愛されていることをあまり感じていない」と答える児童が数名いたことを受け、今年度も一人ひとりとの関わりについて意識して取り組むことを共有した。

(ｳ) 一人一人との関わりを通してその成長をサポートするため、教員間で児童についての情報交換を密にし、全教職員で全児童を見守り指導する。これについては、しっかりと行うことができた。

イ　国際教育

(ｱ) 心の教育と並行して国際的なグローバルな視野※を持った児童を育成していく。※グローバルな視野とは、1.自分が世界とつながっていることを実感できること　2.言語（日本語・英語）を使って、様々な人とコミュニケーションが取れること　3.多様性を受け入れ、認める心を持っていることを指す。

(ｲ) 具体的な方法として、以下の３観点を継続実施した。

ａ　日常生活の中で英語に触れる

校名変更前に計画していた９点のうち、６点が実施済みとなった。特に朝学習については英語科のみならず全教員で取り組み、英語力の引き上げに繋がった。

ｂ　英語を使った活動へ挑戦する

校名変更前に計画していた５点全てが実施済みとなった。特に国際交流プログラム（ホームステイ）への需要が高く、21名の児童が参加した。また、実施校であるSt.Pius小学校とのオンライン交流も継続した。

ｃ　様々な国の人、外国語、文化に触れる

校名変更前に計画していた４点のうち、３点が実施済みとなった。特にインターナショナルウィークには全教員がその運営に取りくみ、児童はイタリア、カンボジア、オーストラリアについての学びを深めた。

ウ　共に学び合う授業、資質・能力を育成する授業

(ｱ) 各教科で令和５年度の自身の授業や子どもたちの実態を振り返り、令和６年度に重点的に育てていく資質・能力を選定した。その資質・能力を育成するために具体的な方法や手段を共有化し、系統的な指導や研究に取り組んだ。校内授業研究会は社会科で行い、生活科・社会科部の教員が協力して研究を行った。また、全教員で他教科の取り組みを参考に自身の教科、

授業研究に生かした。

(ｲ) 教育精神が生きる場として大切にしている合宿を令和６年度も実施した。子どもと教師の信頼関係の構築はもとより、子ども同士が学び合える体験を計画し、行った。

(ｳ) 令和３年度、教育課程検討委員会のもと合宿を中心としたカリキュラム編成を行なった。令和６年度もこれに基づき教科と結びついた横断型の学習を合宿と絡めながら展開した。特に５年生の尾瀬高原学校では社会科と理科の学習と深く関連させながら横断的な活動を行った。

エ　ICT の活用

(ｱ)　３年生以上は個人持ちの iPad を家庭学習でも使用できるよう家庭への持ち帰りについて、i-Filter 等を利用したシステム整備を行った。また、情報モラルや使用方法については保護者の理解や協力を得た上で指導した。また、情報リテラシーについては、授業で扱ったり、NTT DOCOMO や警視庁等専門家による特別授業を実施する等、児童から危険を回避し、安全な使用を目指してきた。

(ｲ) 中学への円滑な移行のため、５、６年生は一人一台のパソコンを用いて学習し、Word、Excel、Power Point の操作を身につけさせてきた。これに向けて、iPad を用いてのロイロノートの基本操作は１、２年生で終了し、２年生からはタイピングを始めた。３年生ではタイピングをしっかりと身につけると共にプログラミングも学んでいる。４年生はパソコンの基本操作に慣れさせていく学年として位置付けた。

(ｳ) 情報の授業以外の教科でも、iPad を有効的に活用するよう推進し、どの教科でも、「学び合い」のツールとして用いている。

オ　教員研修・資質の向上

(ｱ) 昨夏の教員研修では、「授業から考える『伝わる愛』～『目黒星美らしい授業』とは～」をテーマに、教員一人一人の実践報告を通した分かち合いをして学びを深めた。「いつも子どもと共に」の実践は、授業外で心を開放した状態で関わりの時間がとても大切である。しかし、児童は学校生活の中での多くの時間を、授業を通して過ごしている。ドン・ボスコの９歳の夢200周年として、ローマからの手紙にある「愛するだけでは足りない、愛されていると感じられる関わり」を、授業を通してどのように行っていくかを皆で考え合うことができた。また、「新任宿泊研修」として行ってきた秋の宿泊研修を、「階層別宿泊研修」と変化させ、さまざまなステージにあ

る教員階層との一致を図る研修としていくことにした。昨秋は、奉職年数の高い階層で研修を行い、聖ドミニコ学園理事長・学園長の山崎昭彦先生をお迎えしてご講演をいただき、目黒星美の明日をリードする存在として、創立者の精神を生きる自分を振り返る分かち合いを行った。

(ｲ) 新任研修を学年主任、教科主任を中心に行った。また、東京私立初等学校協会（東初協）の教科部会の運営委員（国語、算数、英語）を務める教員に鼓舞されながら教員全体の授業力アップを目指している。

(ｳ) 創立者の精神を深め、サレジアンカラーを意識して教育に当たるため、毎月サレジアンカラーの一項目を目標として掲げ、週の初めの終礼では祈りとして全員で唱えた。

(ｴ) 児童への英語教育が進められるため､教員の英語力の向上も求められる。そのため、教員もオンライン英会話レッスンに参加できるよう促した。

(ｵ) ドン・ボスコの精神を継承するサレジアンとしての資質向上を目指し、サレジオ家族教員養成講座を全教員で視聴し、グループを作って分かち合いを行った。理念の継承のみならず、教員同士の教育観の一致においても非常に有意義だった。

カ　行事について

(ｱ) 合宿については、コロナ以前の形に戻して実施した。昨年度は２年生の秋の自然教室を宿泊先の老朽化により､山中湖･平野にある「リゾートイン愛」に変更して実施した。

(ｲ) 令和３年度、働き方改革に伴い行事を見直した。その際、音楽会の形を変え、全学年一年に一度の発表の機会を設けることに方向転換した。それから２年が経過した昨年度、児童の成長に大いに貢献する音楽会を元の形に戻したいとの教員の声の一致により、これを受けて、今年は児童対象と保護者対象の２回実施した。

(ｳ) TGG（TOKYO GLOBAL GATEWAY）への参加を高学年で行うことを決め、令和５年は６年生が参加した。今年度も継続し、実施した。

(ｴ) サレジオグラウンドをお借りして、働く消防の写生会を３年生を対象に実施した。

(ｵ) 芸術鑑賞として、６年生は劇団四季「アラジン」を鑑賞し、４、５年生は、文化庁主催の新日本フィルハーモニー交響楽団の演奏会に参加した。

キ　いじめ及び不登校児への対応、体罰防止について

(ｱ) いじめについて

a　本校の「いじめ防止基本方針」を見直し、より本校の現状に即したものに改訂し、最終確認中である。(確認終了次第、令和７年度より実施)

b　「いじめ」防止のため、各教員は愛情をもってより積極的に子ども達とかかわり、子どもの悩み等を早期に発見し、対応する。

c　いじめについてのアンケート実施にむけて、アンケートを検討、作成中である。(令和７年度後期実施予定)

(ｲ) 不登校児への対応について

委員会で作成したマニュアルに沿って、各々の児童に対応できるよう慎重に進める。マニュアルは、最終確認を終え次第、実施する。

(ｳ) 体罰について

a　教職員に徹底するため、体罰防止については定期的に話をしたり声をかけたりし、児童指導については複数で対応していく。

b　体罰行為があった場合の対応マニュアルを新たに作成する。(マニュアル作成中)

以上(ｱ) (ｲ) (ｳ) については、対策委員会でマニュアル作成中であったが、委員の体調不良により令和7年度に申し送り、完成させ実施する。

ク　入試広報活動

(ｱ) 学校をより多くの方に知っていただけるよう、ホームページを有効活用する。令和６年度は8504人のアクティブユーザーを記録し、13万件の操作がホームページ上で記録された。

a　学校長による定期的な「せいびブログ」の更新

b　説明会情報とミライコンパスとのリンク

c　他ネットツールとしてインスタグラムの導入(導入初年度末登録者約750人)

(ｲ) 学校説明会の実施。学校名を広く伝えながら、本校の教育が正しく周知されていくことを念頭に置きながら、校内の他、校外での説明会にも積極的に参加した。

a　校内での全６回（入試体験会・就学入試説明会を含む）の実施

b　計６回の合同相談会の出展

c　幼児教室での講演依頼を積極的に受け入れ、実施

d　他校と協力しながらの Zoom を使用した月１回の配信

(ｳ) 目黒サレジオ幼稚園との連携

a　小学校教員による保護者への教育講話の実施

b　年長児による小学校生活の見学会受け入れ(幼稚園主体)

ケ　働き方改革

(ｱ) 時程について

授業は、一コマは40分間で行う。昼食及び昼休みを低学年と高学年とで時程を変え、児童が伸び伸びと遊べるようにしてきた。教員については、これまで同様7時45分を出勤時刻とするが、退勤は16時30分とし、勤務時間内で各々休憩時間を取った。3階の一室（モルネーゼ）または職員室の一角を休憩スペースとした。

(ｲ) 仕事の軽減について

事務職員の朝礼前の煩雑さを解消するため、欠席・遅刻等の連絡手段はこれまで同様「スクリレ」を利用した。また、購買部での物品購入についても、事前に購入の注文を提出している。

(ｳ) ペーパーレス化

終礼での連絡事項や職員会議等、可能な限りペーパーレスとし、ロイロノートやスプレッドシートなどを利用している。

(ｴ) 可能な限り、児童が登校しない土曜日を在宅勤務とし、研修や健康維持のための時間として有効に使うようにした。

コ　学校内外での安全

(ｱ) 一斉メール配信システム「ミマモルメ」の利用を継続し、また、希望者への登下校メールサービスも継続して受けられるようにした。

(ｲ) 学校危機管理マニュアルの検証・見直しを随時行い、児童の安全に努めた。また、登下校の安全のため、保護者の見守り隊を依頼し、多くの保護者の協力を得て実施できた。

サ　その他

後期より、不登校あるいは、様々な傾向のある子どもへの支援のため、物理的な環境を整え、そして、子どもが心を安定させ、自立を図るための場所、教室に復帰するための場所としてスクールカウンセラーならびに相談室を設置した。保護者の教育相談、児童の支援、また、教職員への研修などを行った。

(8) 星美学園幼稚園

ア　令和６年度教育プロジェクトの成果と反省

教育重点目標「こころを開いて喜んで生活する子ども」を育てる。

年間を通して日々子どもたちは、生活や遊びを通して神様、先生、友だちとの信頼関係を築いてきた。全集団での生活や遊び、グループでの遊びやゲー

ムに取り組む中で、他者との違いを受け入れ合う大　切さを学んできた。特に年長組は「こどもの哲学対話」を通して、他者の意見を聞き、相互に受け入れ合う姿が身についてきた様子がみられる。

保護者に対しては、降園時やクラスだよりを通して、教育の内容や成果を丁寧に伝えるようにつとめた。子どもたちが生き生きと安心して園生活を送ることで、保護者の満足感もあったのではないかと思われる。また、保護者のカトリック教育への理解が深まるよう年３回教育講話を実施した。

イ　教職員の研修

子どもの遊びの環境づくりを通して、次の日につながる保育をするための記録に重点を置いて研修を積み重ねてきた。今年度は特に「個と学級の繋がり」をテーマに記録から読み取った子どもの姿をどのように遊びや活動につなげるかと共に、保育者の願いや意図にも着目して、気付きや難しさなどを共有しながら外部講師からの助言を頂きながら研修を深めてきた。

また保育の専門性、特に特別支援の必要な子どもへの理解や対応についても夏期休暇中に研修を受け、実践につなげられるようにした。

ウ　保護者との連携強化

降園の際、日々の出来事を伝えたり、保護者の相談を受けたりしながら、子どもの育ちを保護者と共に考えてきた。また必要な情報を発信し、家庭の保育力を高めるよう努めてきた。

学年やクラスでの活動は、学年だよりやクラスだよりで丁寧に伝えることで、日々の教育内容を理解して頂けるよう配慮してきた。

エ　働く保護者への支援・預かり保育の拡充

早朝8：00からの受け入れ、保育後は18：00までの預かり保育を実施している。長期休暇中の預かり保育も実施しており、保護者からは好評を得ているが、職員への負担が増している。

毎日預かり保育を利用している家庭とクラス担任が直接話す機会が少なく、連絡帳を介してのやり取りになっていることが課題となっていので、必要な場合は、保護者との面談を提案するなどしてきた。

オ　広報の充実

未就園児行事「星の子会」を実施し、園の教育方針を知って頂けるように工夫してきた。見学説明会（9～10月の毎日）においては、一日５名以下で実施し、普段の保育の様子を見て頂いたり、園内で遊んだりして園の雰囲気や教育活動を理解して頂けるようにしてきた。

カ　他校種との情報交換及び連携

(ｱ) 短期大学…見学実習、教育実習の受け入れをした

(ｲ) 中学校高等学校…職場体験の生徒の受け入れをした。

(ｳ) 小学校…内部小学校との交流会で､小学校への興味､関心を高める工夫。

キ　働き方改革

定時退勤が習慣化されている。

在宅勤務を実施―勤務日の土曜日を、クラスだよりや個人の記録、保育の計画に充てられるようした。

ク　学校評価（保護者アンケート）

保護者に園の運営、教育等のアンケートを実施し、次年度に向けての取り組みを保護者に伝えた。いずれも90パーセント越えの高い評価を頂いた。

ケ　来年度に向けての取り組み

教育内容については、重点目標に沿って、保育の計画、実践、評価、改善のサイクルを継続的に行い、より質の高い保育を行うよう努める。

家庭との連携においては、話しやすい環境（時間、場所等）を整える。

英語プログラムの導入（2025年度9月より導入開始）

2　施設設備等の主要事業

令和６年度の主要事業は、概ね計画どおり実施した。

(1) 法人本部

1	サレジアン国際学園中学校高等学校校舎新築ＣＭ業務
2	サレジアン国際学園中学校高等学校校舎新築新築工事
3	施設棟改修工事
4	仮設校舎等リース代
5	埋蔵文化財発掘調査
6	本館からの移転作業費
7	廃棄物処理委託費

(2) 星美学園短期大学

1	403教室マルチメディア周辺機器プロジェクター更新

(3) サレジアン国際学園中学校高等学校

1	職員室ＰＣリプレイス
2	特別教室棟屋上防水工事
3	特別教室棟エアコン更新

(4) サレジアン国際学園世田谷中学高等学校

1	図書室の改修
2	カフェテリアへの改修
3	ホームルーム教室（普通教室）の増設
4	普通教室後方への学習用具入れ等の設置
5	生徒用ロッカー・机・椅子の購入
6	校舎前道路の舗装化
7	コンストラクション・マネジメント業務委託契約
8	スクールバス運営費（３台）

(5) 星美学園小学校

1	普通教室棟教室内塗装工事
2	普通教室棟内部階段廊下天井壁面塗装工事
3	多目的ホールエアコン更新

(6) サレジアン国際学園目黒星美小学校

1	エレベーターの更新
2	外壁大規模改修（第４期）

(7) 星美学園幼稚園

1	男子トイレ小便器等更新工事

Ⅲ 財務の状況

1 資金収支計算書

（収入の部）　　（単位：千円）

科　　目	予　算	決　算	差　違
学生生徒等納付金収入	1,901,311	1,756,321	144,990
手数料収入	40,248	40,354	△ 106
寄付金収入	74,941	83,639	△ 8,698
補助金収入	1,000,938	1,186,977	△ 186,039
資産売却収入	0	0	0
付随事業・収益事業収入	3,700	5,944	△ 2,244
受取利息・配当金収入	8,590	10,216	△ 1,626
雑収入	48,832	87,460	△ 38,628
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	207,705	273,338	△ 65,633
その他の収入	3,346,350	2,072,456	1,273,894
資金収入調整勘定	△ 278,615	△ 339,646	61,031
前年度繰越支払資金	270,223	1,340,625	△ 1,070,402
収入の部合計	6,624,223	6,517,683	106,540

（支出の部）

科　　目	予　算	決　算	差　違
人件費支出	2,695,580	2,400,992	294,588
教育研究経費支出	1,123,270	804,029	319,241
管理経費支出	391,360	245,003	146,357
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	1,961,952	1,319,681	642,271
設備関係支出	364,410	269,415	94,995
資産運用支出	0	0	0
その他の支出	62,008	196,368	△ 134,360
〔予備費〕	(0) 62,500		62,500
資金支出調整勘定	△ 58,808	△ 121,519	62,711
翌年度繰越支払資金	21,951	1,403,714	△ 1,381,763
支出の部合計	6,624,223	6,517,683	106,540

概　要

資金収支における収入面では、主としてサレジアン国際学園の２校の中学校入学者が増えて、学納金、補助金収入も増えたが、中学校高等学校の新校舎及び特別教室の改修関連の支出を賄いきれず、特定資産から約20億円を取崩して補填を実施した。

２ 事業活動収支計算書

（単位:千円）

科　　目		予　算	決　算	差　違
教育活動収支	学生生徒等納付金	1,901,311	1,756,321	144,990
	手数料	40,248	40,354	△ 106
	寄付金	33,987	44,966	△ 10,979
	経常費等補助金	966,938	1,161,306	△ 194,368
	付随事業収入	2,000	3,741	△ 1,741
	雑収入	48,832	87,469	△ 38,637
	教育活動収入計	2,993,315	3,094,157	△ 100,841
	人件費	2,695,580	2,400,961	294,619
	教育研究経費	1,784,170	1,377,704	406,466
	管理経費	463,560	300,880	162,680
	徴収不能額等	906	906	0
	教育活動支出計	4,944,216	4,080,451	863,765
	教育活動収支差額	△ 1,950,901	△ 986,295	△ 964,606
教育活動外収支	受取利息･配当金	8,590	10,216	△ 1,626
	その他の教育活動外収入	3,600	3,600	0
	教育活動外収入計	12,190	13,816	△ 1,626
	借入金等利息	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0
	教育活動外支出計	0	0	0
	教育活動外収支差額	12,190	13,816	△ 1,626
	経常収支差額	△ 1,938,711	△ 972,479	△ 966,232
特別収支	資産売却差額	0	0	0
	その他の特別収入	74,955	64,626	10,328
	特別収入計	74,955	64,626	10,328
	資産処分差額	0	7,304	△ 7,304
	その他の特別支出	0	246	△ 246
	特別支出計	0	7,550	△ 7,550
	特別収支差額	74,955	57,076	17,878
（予備費）		(906) 61,594		61,594
基本金組入前当年度収支差額		△ 1,925,350	△ 915,403	△ 1,009,947
基本金組入額合計		△ 1,519,850	△ 1,518,921	△ 929
当年度収支差額		△ 3,445,200	△ 2,434,323	△ 1,010,876
前年度繰越収支差額		1,121,579	2,182,222	△ 1,060,643
基本金取崩額		0	0	0
翌年度繰越収支差額		△ 2,323,621	△ 252,101	△ 2,071,519

（参考）

事業活動収入計	3,080,460	3,172,599	△ 92,139
事業活動支出計	5,005,810	4,088,002	917,808

概　要

事業活動収支における収入面では、主な収入源である教育活動収入額は対前年度約１億9千万円増額となった。一方、支出面では、中学校のクラス数の増加に伴う教員（派遣ネイティブ教員を含む。）の増員、その他の費用も増額になり、経常収支差

額で約９億7,247万円の赤字となった。

基本金組入前当年度収支差額は、△９億1,540万円となり、基本金へ15億1,892万円組入れた結果、当年度収支差額は、△24億3,432万円となった。

３ 貸借対照表

資産の部　　（単位:千円）

科　　目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	26,041,785	27,081,227	△ 1,039,442
有形固定資産	11,437,103	10,482,920	954,183
特定資産	14,477,998	16,474,029	△ 1,996,031
その他の固定資産	126,683	124,278	2,405
流動資産	1,615,721	1,446,778	168,943
資産の部合計	27,657,506	28,528,005	△ 870,499

負債の部、純資産の部

科　　目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	133,215	150,707	△ 17,492
流動負債	649,353	586,958	62,395
負債の部合計	782,569	737,665	44,904
基本金	27,127,038	25,608,118	1,518,921
繰越収支差額	△ 252,101	2,182,222	△ 2,434,323
純資産の部合計	26,874,937	27,790,340	△ 915,403
負債及び純資産の部合計	27,657,506	28,528,005	△ 870,499

概　要

資産の部合計は、特定資産の約20億円の取崩により前年度末より８億7,049万円減の276億5,750万円となった。

負債の部については、前年度末に比べ4,490万円増加し、７億8,256万円になった。純資産の部は、繰越収支差額が24億3,432万円減ったため、268億7,493万円となった。